

第86回日本皮膚科学会東部支部 学術大会を終えて

(2022年8月27・28日)

※朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターとWeb配信のハイブリッド開催

濱 菜摘

新潟大学医学部皮膚科学分野講師

はじめに

2022年8月27日・28日に、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会を開催させていただきました。本学術大会会長の阿部理一郎新潟大学皮膚科教授の指揮のもと準備を進めてまいりました事務局長の視点からご報告させていただきます。

本大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の見通しがつかないため、当初からハイブリッド開催の予定としました。とくに開催直前には第7波

が猛威をふるい、現地での開催にも少なからず影響があることを心配しておりましたが、幸いなことに550名の現地参加者の方を含めまして約980名の方にご参加いただきました。

テーマとコラボレーション

本大会のテーマとしては、皮膚科学の最新知識を学ぶこと、および旧知の方と新潟で久々に会い親交を深めることの2つの意味を込めまして“新潟でWhat's New?”といたしました。



図1 コラボレーションした『らんま 1/2』のビジュアルをバックに記念撮影

© 高橋留美子/小学館

学術大会として次項で取り上げます8つのシンポジウムや国際色豊かな教育講演に力を入れつつも、楽しそうな学術大会だな、と皆様に思っていたら、新潟の魅力を発信するには……と会長と思案いたしました。そこで、会長の発案により、マンガで有名な新潟におきましてたいへん著名な漫画家でいらっしゃる高橋留美子先生に『らんま1/2』にてコラボレーションをお願いすることにいたしました(図1)。まさかの提案に初めは驚きましたが、すぐにたいへんよいアイデアであると思い新潟コンベンション協会を通じてご依頼したところ、なんとご快諾いただけました。そして皆様にご覧いただきましたポスターやホームページ、抄録集などができあがった次第です。本大会への反響が大きかったのも、このコラボレーションによるところが大きく、高橋留美子先生には厚く御礼を申し上げます。

プログラム

さまざまな分野の最新の知見を深められるよう、8題のシンポジウムを開催いたしました。薬疹、皮膚癌、接触皮膚炎、化粧品研究、毛髪疾患、クリニックでの診療、膠原病、リンパ腫について、各分野のエキスパートの先生方にオーガナイザーおよびご講演を賜りました。どのシンポジウムもたいへん素晴らしくとても勉強になる内容でしたが、参加者の皆様には日程的にすべてを聴講していただけなかったのが残念です。また、日本だけでなくグローバルな観点からもお話をお聞きするため本大会では6名の海外の先生にご講演いただきました。とくにメリーランド大学のThomas Hornyak先生とクイーンズランド大学のNikolas Haass先生はビザを取得して現地へお越し下さり、Hornyak先生には教育講演でパンデミック下におけるアメリカの皮膚科診療事情を、Haass先生にはシンポジウム2でメラノーマのご研究のお話をしていただきました(図2)。久しぶりに海外の皮膚科医の先生とリアル



図2 教育講演をしてくださった海外講師の Hornyak 先生と Haass 先生

に交流ができ若い先生方もよい刺激を受けておりました。

招待講演には社会学者の上野千鶴子先生に「皮膚科は女性向きの職業か？」というご演題名でご講演いただき、他科と比べてもすでに女性医師数が半数を占める皮膚科に向けての問題提起をいただきました。期間限定で日本皮膚科学会ホームページ上の会員専用E-learning内に本動画がアップロードされておりますのでご興味のある方はご覧いただけます。学会オープニングのビデオ挨拶は、全国から著名な先生方にご出演いただいたストーリー形式でしたが、こちらはアップロードされておられません。残念！

開催における工夫とおもてなし

感染状況のため懇親会は中止させていただき、その代わりに現地参加者の方へ市内で利用できる食事券を配布いたしました。思い思いに市内のお店で飲食できたと参加者の方からも、また飲食店からも喜ばれました。もう一つ、現地参加者の方限定で『らんま1/2』とコラボレーションしたコングレスバッグもお配りいたしました。デザインから教室員が携わり、使いやすく素敵なバッグとなり好評でした。今回の特別な試みとしては、会場内の託児室にお子様を預けられた方は参加費を無料といたしました。お子様同伴でも勉強したい、現



図3 教室員手作りのポップが光る無料ドリンクコーナー

地で発表したいと思う方が増えることを期待しました。演題募集が始まるころからは学会公式SNS (InstagramとTwitter) も開始し、当日まで情報発信しました。担当の教室員をはじめ、教室の皆が撮った新潟の写真もアップロードしました。会期当日のドリンク・お菓子コーナーにはご当地銘菓や面白ドリンクまで幅広く準備し、教室員手描きの完成度の

高いポップまで作成してみました(図3)。

しかし何よりも、「すべての演題に質問する！」ことを目標に、教室員が学会に参加したことで皆成長しましたし、ご参加いただいた他大学の先生方からもたくさんお褒めの言葉を頂戴しました。教室員が一丸となって学会を盛り上げられたのではないのでしょうか。

おわりに

コロナ禍であることに加え、これまでにない取り組みが多かったと思われていますが、本大会が無事に開催できたのも日本皮膚科学会大会運営部の皆様、とくに山田紀子様のご尽力のおかげです。また、数々のリクエストに快くお力添えをしてくださった新潟観光コンベンション協会の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

個人的にはまったくの素人で未経験のことばかりでしたので、阿部教授にご指導いただき、教室の皆の強力なサポートもありなんとか無事開催できたことに安堵しております。たいへんではありましたが、教室員一同にとってよい経験となりました。この場をお借りしてご参加・ご尽力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。



図4 東部支部恒例、プレCPC (臨床病理検討会) の様子